きゅうりタウン構想の実現に向けたさらなる展開

ねらい

海部郡では，県南の温暖な気候と冬期日照量が多い自然条件を活かし，促成キュウリ栽培が盛んに行われてきましたが，生産者数は最盛時の１／４まで減少しています。

このため，ＪＡかいふ，海部郡３町，県（農業支援センター）で組織する「海部次世代園芸産地創生推進協議会」を立ち上げ，移住就農による担い手確保と産地活性化を目標とした「きゅうりタウン構想」の実現に向け，地域が一体となって取り組みました。

活動地域・対象

地域：海部郡全域　・　対象：移住就農者，新規就農希望者，施設キュウリ生産者等

普及活動の目標

移住就農による担い手確保と産地活性化を目指す「きゅうりタウン構想」の実現に向けて産地面積，収量増による所得増に取組みます。また，この取組みによる新たな交流人口の増加を目指します。

①新規就農者増加数 ８経営体16名　②産地面積の増加 5.3ha→7.0ha
③養液栽培技術の確立 年間収量30t/10a ④交流体験等への参加者数 １，０００人

目標に向けた活動概要

１　キュウリ養液栽培技術の確立および収量増技術の確立
２　海部きゅうり塾生の募集・育成
３　産地拡大に向けた新規就農者の育成と労働力の確保

普及活動の成果

１　キュウリ栽培技術の確立

（１）養液栽培技術の確立

次世代園芸実験ハウスを拠点に養液栽培技術の確立を目指し，目標収量（30ｔ／１０ａ）を達成するために，冬春越冬作の栽培の問題点の洗い出しを行いました。

その結果，施肥管理に課題があることが明らかになり，養液栽培者と情報共有することで生育状況が改善され，年間収量２９ｔ／１０ａ（最高）に達しています。

生育情報等の共有

（２）環境制御技術の推進

導入された複合環境制御装置の通信ネットワークを活用し，各栽培ハウスの施設内環境を比較分析することにより，生育・収量の改善に繋げています。

複合環境制御装置の活用

（３）養液土耕栽培の検討

日射比例による養液土耕栽培実証ほを設置した結果，低コスト（施肥Ｎ量３割減）や省力化が図られ，収量120%増に繋がることが明らかになり，新たに７戸が導入しました。

２　海部きゅうり塾生の募集・育成

キュウリ版トレーニングファーム

　海部きゅうり塾６期生（３名）については，「海部きゅうり塾」のプログラムに，新たにベテラン農家の施設で，キュウリ栽培を学ぶトレーニングファームを採用することで，より実践的な研修を実施しました。

　また，新たな海部きゅうり塾生の募集に向け，ＰＲ動画を作成するとともに，オンラインとリアルできゅうりタウンを体験するツアー（Ｒ１～Ｒ４：６６１人）を実施しました。

　なお，令和２年度～４年度の新規栽培者数は，１２名となっています。

３　産地拡大に向けた新規就農者の育成と労働力の確保

（１）作業を補完するきゅうりヘルパーの育成

　促成胡瓜部会に対して労働力補完需要調査を実施したところ，連日１１時間以上の労働を行っている栽培者がいることや，産地全体で１５名のヘルパーの確保が必要であることが明らかになりました。そこで，ＪＡかいふが開設している「農作業無料職業紹介所」と連携し新聞折込等で募集を行いました。また，生産者とヘルパーのマッチングを促す「１日農業バイト」アプリの運用を開始し，ヘルパーの確保を支援しました。

「１日農業バイトアプリ」生産者説明会

今後の発展方向

　「きゅうりタウン構想」の推進の成果として就農者１６経営体・２０名，１ｈａの次世代園芸団地が整備されました。

- 「海部きゅうり塾」では，令和４年度に新たに２名（１組）が入塾するなど，移住就農者を中心に２９名を受入れ，２０名が就農（土耕栽培１０名、養液栽培１０名）しました。これからも新規就農者の確保に努めます。
- 魅力ある栽培技術と位置づける「養液栽培」については，目標である年間収量30t/10aを上回る技術確立に努めます。
- 農業の関係人口を増やし，移住就農をはじめ，新規就農者の確保に努めます。

関係者からの声

- 海部地域が一体となって取り組んだ結果，移住就農者を中心にこれまで２９名が「海部きゅうり塾」に入塾し，２０名が新たにきゅうり栽培を開始している。今後も連携して一緒に取り組んでいきたい（JA関係者）
- 私達が，儲かる農業を実証し，「きゅうりタウン構想」が本当の町づくりとなるよう頑張りたい。
（新規就農者）

美波農業支援センター

連絡先：徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1　　tel：0884-74-7488